

東電問題が公衆の原子力発電に対する態度に及ぼした影響

— 第3回定期調査 —

Impact of the TEPCO Incident on the Public's Attitude to Nuclear Power Generation — Periodic Survey No.3 —

北田 淳子 (Atsuko Kitada) *

要約 1993年から継続して実施している原子力発電に関する世論調査データを用いて東電問題の影響を検討した。原子力の事故への不安やリスク感、原子力発電に関わる組織へのイメージや信頼感、原子力発電の利用についての意見、総合的態度のいずれについても否定的な変化はなく、東電問題の影響はみられなかった。

原子力発電に対する態度への影響があったJCO事故の場合と比較すると、東電問題では強い印象を受けた人が少なく認知度が低かった。認知度が低かったことが原子力発電に対する態度への影響がなかったことに関連していると推定された。JCO事故の場合はマスメディアへの接触が少ない層でも認知度が高かったが、東電問題では接触が少なくなると認知度が大きく低下していたことから、マスメディアの報道の違いが推測された。東電問題とJCO事故に関する新聞記事件数を比較した結果、東電問題はJCO事故の2分の1以下と少なく、マスメディアの報道に量的な違いがあったことが裏付けられた。

東電問題認知度との相関分析によって、認知度の高い層における影響を探った。安全運転が原子力発電所職場の最優先目標になっているとの信頼は高く、東電問題によって損なわれていないことが示された。しかし、安全性について本当のことが公表されていないという不信は高く、この不信の程度と認知度との間に比較的高い相関があったことから、調査対象集団全体では東電問題の影響が現れるには至らなかったが、認知度の高い層では影響があった可能性が示唆された。

キーワード 原子力発電, 世論調査, 東電問題, 影響, 認知度, 新聞記事件数

Abstract The impact of the TEPCO incident, was examined, using the data collected by public opinion polls on nuclear power generation, which have been conducted persistently since 1993. The survey revealed that there were no negative changes in the public's attitude overall (including their concerns about nuclear power accidents, their sense of danger of such accidents, the image of organizations involved in nuclear power generation, their confidence in such organizations, and their opinion on the use of nuclear power generation), and that the TEPCO incident had no impact on the public's attitude to nuclear power generation.

In contrast with the JCO accident, which did affect the public's attitude to nuclear power generation, the TEPCO incident left a strong impression on few people, and public awareness was limited. Such low public awareness is deemed to relate to its lack of impact on the public's attitude to nuclear power generation. In the case of the JCO accident, even individuals who had limited exposure to the mass media were highly aware of it, whereas in the case of the TEPCO incident, individuals who were relatively unexposed to the mass media were substantially less aware of the incident than their more mass-media-exposed counterparts. This is deemed to have been due to the difference in mass media reports. A comparison of newspaper articles covering the TEPCO incident and the JCO accident substantiated the quantitative difference in mass media reports: articles on the former numbered less than half of the latter.

Correlation analysis with respect to the awareness of the TEPCO incident was conducted, in order to identify the impact of the incident on individuals with a high level of awareness. Such individuals were highly confident that safe operation is being regarded as the top-priority objective by staff at the nuclear power plants, indicating that their confidence was not undermined by the TEPCO incident. However, there was a high level of distrust, that the truth about safety is not being disclosed publicly. Its correlation with awareness of the TEPCO incident was comparatively strong, indicating that the TEPCO incident may have had an impact on individuals with a high level of awareness, even though it did not have a visible impact on the group subject to the survey as a whole.

Keywords Nuclear power generation, public opinion poll, TEPCO incident, impact, number of newspaper articles

* (株)原子力安全システム研究所 社会システム研究所

1. はじめに

原子力発電に対する世論（以下「世論」と略す）の動向を把握するために、原子力安全システム研究所では、1993年以来、関西地区において定期調査と原子力施設の事故後のスポット調査を実施している。これらの調査によって、松田（1998）はアスファルト固化施設事故の影響を明らかにし、北田・林（2000）は東海村臨界事故（以下「JCO事故」という）の影響を明らかにしている。

2002年8月29日に原子力発電所の原子力プラントの自主点検で発見されたシュラウドのひび割れを東京電力が報告していないことが公表されたのを端緒とし、配管のひびなどの損傷や、定期検査における格納容器漏洩率検査の不正などが明らかになり、原発のトラブル隠しとして社会から厳しく批判された（以下「東電問題」という）。東電問題は、研究開発施設や燃料加工工場ではなく、原子力発電所本体で生じた問題であること、東京電力は日本最大の原子力発電を担う電力会社であること、さらに、事件を受けて点検のために停止した多くの原子力発電所が再稼働できず、電力不足が懸念される深刻な事態を招いたという点で、これまでの事故の場合とは大きく異なっている。

東電問題が世論に与えた影響に関しては、朝日新聞社は事件発覚から1週間後に実施した世論調査から、原子力発電の推進についての賛否と事故の不安の推移を報じている。影響を評価するには事件発生前のデータが不可欠であるが、原子力発電に関する幅広い質問構成の継続調査はあまりなく、公表されているものは賛否などわずかな観点での影響評価にとどまっている。他の調査では事件発生前のデータがないために、不安が高まったかどうかなど回答者自身に主観的評価を求める質問も見受けられるが、これは事件に対する意見や感想をとらえるものではない。また、迅速、簡便かつ低コストであることからインターネット調査によって影響を評価しようという向きもある。大隅（2002）は、インターネット調査と従来調査を組み合わせた3次にわたる豊富な実験調査の分析から、インターネット調査の回答者は、その元となる集団であるインターネット・ユーザーの全体を代表はしていないし、しかも、数万規模の登録者集団からサンプリングが行われる場合でも、その登録者集団をも代表していないこと、従来調査の

回答と類似性がある場合とそうでない場合があることを報告している。つまり、現状のインターネット調査を世論調査として使うことはできない。以上の点をふまえると、東電問題の影響は、原子力発電に関する意識を客観的・多角的質問によって測定した継続的世論調査データに基づいて検討する必要がある。

原子力安全システム研究所では継続調査の一環として、東電問題発覚2ヵ月後に第3回定期調査を実施した。この一連の継続調査からは原子力発電に関して多角的な質問の時系列データが得られている。本稿ではこれらの時系列データを用いて、東電問題が世論に与えた影響について検討する。

2. 目的

本研究の目的は、意識調査データを用いて、以下の3つの観点から、東電問題が世論に与えた影響を明らかにすることである。

第1の分析では、時系列比較によって影響を検討する。原子力発電所の事故への不安やリスク感、原子力発電にかかわる組織へのイメージや信頼感、原子力発電に対する態度についての質問をとりあげ、東電問題の影響の有無を明らかにする。

第2の分析では、マスメディアの報道と世論への影響の関連を考察する。本調査におけるふだんの情報源についての質問では、テレビは88.3%、新聞(全国紙と地方紙)は81.6%と、他の情報源から抜き出して圧倒的上位を占めている。大多数の一般公衆はマスメディアを情報源としており、大量に提供されるマスメディアの情報が公衆の認識の形成に深く関わっていると考えられる。第1の分析結果において東電問題とJCO事故では世論への影響に違いがあったことから、同じく東電問題とJCO事故で違いのあった「覚えている程度」（以下「認知度」という）とマスメディアの報道に着目して分析する。

第3の分析では、事業者への信頼について東電問題認知度との関係から検討する。第2の分析結果において、東電問題認知度が世論への影響に関連していると推定されたことから、東電問題認知度の高い層において、事業者への信頼に影響があったかどうかを明らかにする。本調査は個人の態度変化を追跡できるパネル調査ではないので、時系列比較という方法では調査対象集団全体の変化しか把握できない。そこで、東電問題認知度の高い層と低い層の回答を

比較するという方法によって、認知度の高い層における影響を検討する。ただし、東電問題認知度の高低による層別は、東電問題についての認知の差だけではない質的な差を含んでいることが考えられるので、影響の検討は探索的なものである。東電問題では一般の人々に原子力発電への不信感を与えたことが特に懸念されることから、新規の質問を加えている。この方法によれば時系列データのない質問についても東電問題の影響を検討することができる。

3. 方法

3.1 調査概要

調査は事件発覚からほぼ2ヵ月を経過し、原子力発電所の自主点検記録の虚偽記載、福島第一原子力発電所1号機の定期検査データの不正操作も報道済みであった2002年11月8日～11月25日に第3回定期調査として実施した。時系列比較に用いる調査を含め、実施時期、標本数および回収率を表1に示す。いずれの調査も関西地区、18歳以上79歳以下男女を対象に、層別2段系統抽出法、質問紙配布留置自記式により実施している。

表1 定期調査とスポット調査の概要

調査年月	種類	標本数	回収率
1993.1	第1回定期	1500	75.9%
1996.2	もんじゅ事故2ヵ月後	750	74.9%
1997.5	アスファルト固化施設事故2ヵ月後	750	71.1%
1998.7	第2回定期	1500	70.3%
1999.12	JCO事故2ヵ月後	750	70.9%
2000.10	JCO事故1年後フォローアップ	1500	70.4%
2002.11	第3回定期(東電問題後)	1500	70.7%

3.2 調査票の構成

調査票は、原子力発電に対する態度、原子力イメージ、原子力発電に関する認識、電力会社等への信頼、エネルギー問題、環境問題、不安・リスク感、科学文明観、政治的態度、国民性(一般的信頼感、リーダー観、お化け・迷信関心等)、情報接触、回答者属性によって構成されている。もんじゅ事故後とアスファルト固化施設事故後の調査票は質問数の少ない簡略版である。2002年の調査票は本文末に掲載している。

3.3 回答比率の比較方法

時系列比較は比率の差の検定によって評価する。検定にあたっては、層別2段のサンプリング誤差の分散を単純ランダムサンプリングのそれに対して約2倍という経験値を用いて(鈴木, 1991)、 σ 値を算出し、5%水準で有意な基準として近似値である 2σ により評価した。

4. 第1の分析 時系列変化

4.1 結果

4.1.1 2000年からの変化の概観

比較対象とする直近の2000年調査は、JCO事故1年後フォローアップ調査として、JCO事故の影響の推移を検討するために実施されたものである。2000年にはJCO事故2ヵ月後に高まっていた原子力施設事故への不安が事故前のレベルに戻り、その他のネガティブな方向の反応にも回復傾向が認められていた(北田・林・阿登, 2001)。

2000年と2002年で同一の質問選択肢547個のうち、有意差があった項目のうち比率差が5%以上のものは40個である。項目の取舍選択という分析者の主観を排して、調査項目全体の変化をありのままにみるという意義があるので表2に示す。ただし、統計的検定では第一種の過誤の可能性があり、複数の質問や選択肢で一貫した傾向がみられるかなど総合的に慎重に評価しなければならない。

TVニュース「やや見る」が減少、ふだんの情報源としてインターネットが増加している。癌の治療法、宇宙ステーションでの生活に楽観的な回答が増加している。新幹線事故やエイズの不安が低下しているのに対し、戦争が「起こりそう」という回答と戦争の不安が増加している。経済の混乱も「起こりそう」が増加し、環境と対比して経済を軽視する回答が減少している。電力自由化の影響では複数の項目の選択率が上昇し、イメージされやすくなっている。これらは、インターネットの急速な普及、米国の同時多発テロ後の国際情勢や北朝鮮との関係、不況の深刻化、電力の部分自由化の進展などから理解可能なものが多い。

原子力関連では、現在の発電能力の不足感が低下、原子力発電について知りたいことが増加している。

原子力廃棄物について楽観的な回答が増加している。
原子力発電所労働者や幹部のイメージと、原子力発電の安全性についての説明に対する安心感に肯定方

向への変化があり、JCO事故前の1998年の数値に近づいている。

表2 2000年（JCO事故1年後フォローアップ調査）との有意差項目

質問	選択肢	2002年 N=1061	2000年 N=1056	比率差	2 σ	参考 1998年 N=1054
TVニュース	やや見る	36.9	43.1	-6.2	6.02	42.3
ふだんの情報源（複数選択）	インターネット	17.8	12.4	5.4	4.40	2.9
癌の治療方法の解明	たぶん実現する	65.8	59.8	6	5.94	58.7
	実現の可能性低い	26.8	33.9	-7.1	5.65	32.2
宇宙ステーションでの生活	たぶん実現する	23.1	30.6	-7.5	5.45	23.3
妖怪	いてほしくない	15.1	20.5	-5.4	4.70	17.8
新幹線事故	全く不安感しない	27.6	20.0	7.6	5.24	20.0
エイズ	全く不安感しない	19.6	14.6	5	4.63	13.1
戦争の不安	全く不安感しない	16.9	27.7	-10.8	5.12	24.9
戦争	起こらない	30.3	40.4	-10.1	5.88	42.2
	起こりそう	22.6	13.0	9.6	4.70	13.6
経済の混乱	起こりそう	46.8	38.5	8.3	6.08	38.7
経済重視シール	1枚	15.0	20.0	-5.0	4.67	20.8
電力自由化の影響（複数選択）	新しい事業者の進出	32.7	26.8	5.9	5.62	—
	多様な料金メニューから選択	34.1	26.3	7.8	5.65	—
	発電方法のバランスが変化	35.6	23.6	12	5.61	—
	新しい発電方法ができる	32.2	24.9	7.3	5.55	—
支持政党	自民党	21	15.3	5.7	4.74	17.8
	民主党	2.8	9.7	-6.9	2.97	13.9
現在の日本の発電能力	やや不足	20.1	27.8	-7.7	5.25	25.9
知りたいこと（複数選択）	メカニズム	30.3	23.7	6.6	5.46	28.7
	必要性	31.3	21.2	10.1	5.41	24.3
	経済性	21.5	12.9	8.6	4.64	15.1
	過去の故障・事故情報	33.7	26.9	6.8	5.65	30.2
	放射能の影響	61.5	53.1	8.4	6.08	57.4
	原爆との違い	24.1	15.3	8.8	4.89	18.1
	原子力廃棄物の安全な処理方法	たぶん実現する	29.8	23.5	6.3	5.44
原子力廃棄物の処理・処分	非常に不安	23.8	33.0	-9.2	5.54	34.2
	少しは不安	35.8	29.2	6.6	5.76	26.9
労働者イメージ（複数選択）	高い技能をもっている	37.8	27.1	10.7	5.76	34.8
	被曝の作業環境で働いている	41.5	48.3	-6.8	6.12	41.5
幹部イメージ（複数選択）	責任感がない	15.5	20.6	-5.1	4.73	18.3
	優秀な技術者	40.3	32.5	7.8	5.92	37.4
	責任感が強い	13.2	7.9	5.3	3.78	12.7
原子力発電の安全性についての説明						
—微量放射線量	少しは安心	38.9	31.5	7.4	5.87	40.5
	あまり安心できない	35.8	43.9	-8.1	6.02	34.0
—故障の早期発見	少しは安心	41.7	29.8	11.9	5.89	39.0
	あまり安心できない	33.6	46.7	-13.1	6.03	36.1
—多重防護	少しは安心	32.0	25.7	6.3	5.57	31.4
	まったく安心できない	10.4	16.3	-5.9	4.18	12.1

注：比率差が5%未満の項目を除く

4.1.2 事故への不安とリスク感

図1は原子力施設の事故についての不安の推移を示している。これまでの事故後調査では「非常に不安」が有意に増加し、不安感は事故の影響で変動しやすいといえる。しかし2002年に不安の高まりはない。

図2はリスク感に関する質問である。チェルノブイリのような原子力発電所の大事故について「起こりそう」という回答は、JCO事故2ヵ月後に有意に増加し、事故1年後、2002年と順に減少している。2002年に経済の混乱と戦争が有意に増加しているのとは対照的である。

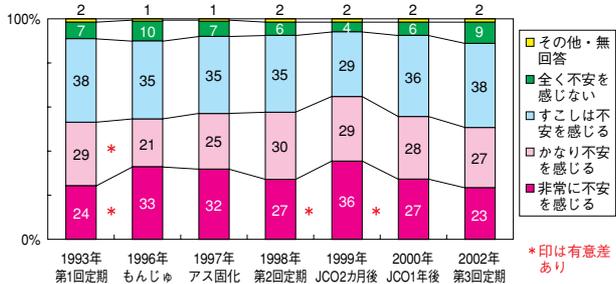


図1 原子力施設事故の不安

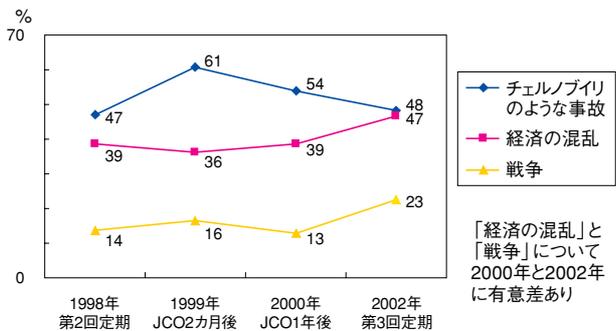


図2 日本で起こる可能性「起こりそう」と回答した比率

4.1.3 原子力発電にかかわる組織のイメージと信頼感

図3は電力、都市ガス、上下水道など6種類の公益性のある事業に対して、10点満点で6点以上をつけた比率を示している。JCO事故では、原子力発電所ではない施設で起きた事故であっても、その問題点を原子力発電所に重ね合わせた反応がみられた（北田・林、2000）が、電力の評価は低下していなかった。しかし、同時期、新幹線のトンネルのコンクリート片落下が問題となっていたため、JRの評価は低下していた。東電問題は電力会社の不祥事であるが、

2002年の電力の評価は他事業と比べて特に低下していない。

図4は原子力発電所の幹部（所長や管理者）のイメージとして選択された比率を示している。「情報を隠している」「責任感がない」という否定的イメージはJCO事故2ヵ月後高まったが、1年後、2002年と減少傾向にあり、「優秀な技術者」「責任感が強い」という肯定的イメージが2002年に増加している。

図5は真実公表への不信の程度を示している。「原子力発電の安全性について国や電力会社は本当のことを公表していない」という意見に対し、「非常にそう思う」という強い不信が3割、「ややそう思う」をあわせ7割が不信感を抱いている。ただし、2002年も有意なレベルの変化はなく、東電問題によってさらに増大したものではない。

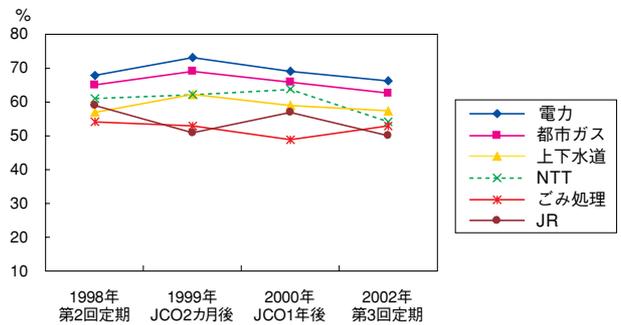


図3 公共性のある事業の評価

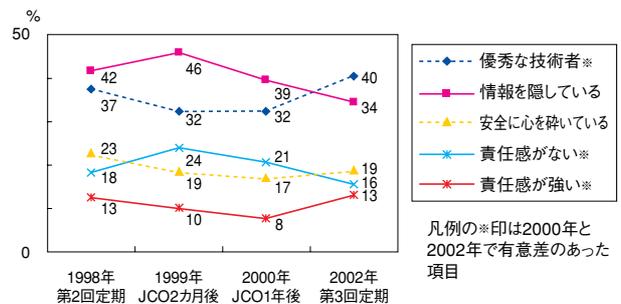


図4 原子力発電所の幹部のイメージ

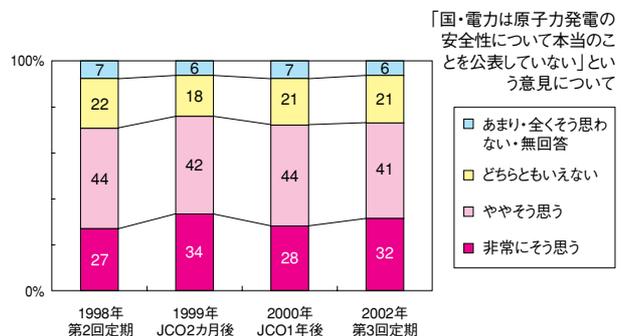


図5 真実公表への不信

4.1.4 原子力発電に対する態度

図6は原子力発電の利用についての意見である。「利用もやむを得ない」という消極的肯定が6割をしめ、「利用するのがよい」を合わせ7割が利用を肯定している。2002年は、JCO事故後に統計的に有意ではないが若干減少していた「利用するのがよい」が増加し、1998年の数値に近づいている。

図7は原子力発電に対する総合的態度和して、個別の質問の回答推移によらず、複数の観点を総合して評価した結果を示している。前述の事故不安や利用についての意見、原子力発電の重要性・有用性の評価、原子力が安全だという話や記事への共感度、原子力発電の上手な利用の可能性など複数の質問から、原子力発電に対する総合的な態度の指標を求めて個人の態度を分類し、時系列比較をおこなったものである。指標の算出方法および態度の分類基準は北田・林(2000)を適用している。JCO事故2ヵ月後には非好意側が増加していた。2002年はJCO事故前の1998年の数値に近づいている。

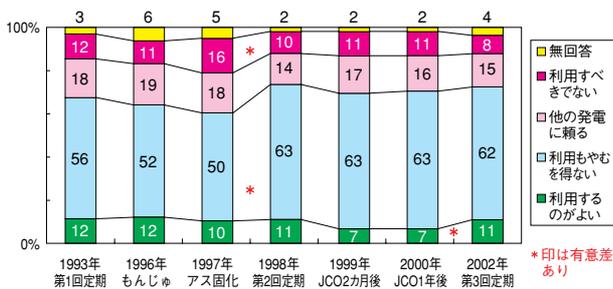


図6 原子力発電の利用についての意見

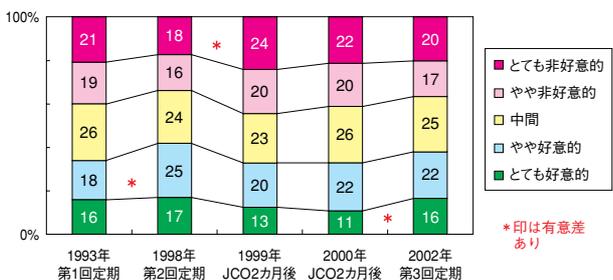


図7 原子力発電に対する総合的態度

4.2 考察

東電問題後には事故への不安やリスク感の高まりはみられなかった。問題となったひび割れの事象は東京電力以外の原子力発電所でも発生しており、特殊な例ではなく他の原子力発電所にも共通する問題

であるが、人々に原子力発電の危険性を強く意識させるものではなかった。東電問題は電力会社幹部や原子力発電所幹部が関与し、組織的に行われた不正であったが、原子力発電に関わる組織へのイメージや信頼感は特に悪化していなかった。原子力発電の利用についての意見、総合的態度のいずれにも否定的な変化はみられなかった。

東電問題後は2000年と比較して否定的に変化した項目はなく、複数の項目においてやや肯定的数値を示していた。東電問題の影響を厳密に測定するには、東電問題直前と比較する必要があるが、本研究では2年の調査間隔があった。比較対象の2000年は、事故不安は回復したがJCO事故の影響をまだ残していた時期であった(北田・林・阿登, 2001)ことから、その後も回復傾向が続き、東電問題直前は2000年より肯定的であった可能性がある。ただし、この間に原子力発電に対する意識が大きく肯定側に動くような社会的要因は見当たらないことから、JCO事故前の1998年より大幅に肯定的であったとは想定しにくい。東電問題後が結果的にJCO事故の影響の回復期である2000年より肯定的の数値にとどまっているという事実は、東電問題の影響があったとしても、その影響はJCO事故の場合と比較して十分小さいことを示すものである。

東電問題後は原子力発電に対する総合的態度をはじめ複数の項目において、2000年より肯定的であり1998年の数値に近い。1998年は原子力発電に対する態度がもんじゅ事故・アスファルト固化施設事故前の1993年よりも肯定的になっていた時期である(北田・林, 1999)。つまり、東電問題後の原子力発電に対する態度はこの10年間の時系列でも肯定的レベルにある。これらを総合すると、東電問題が人々の意識にまったく影響を及ぼさなかったことを意味するのではないが、東電問題の影響はほぼないと評価してよい。

5. 第2の分析 東電問題認知度と報道量

5.1 結果

5.1.1 東電問題の印象度

JCO事故では事故不安感やリスク感、組織イメージをはじめ多くの質問項目に事故の影響があらわれていたのに対し、東電問題では時系列比較において

有意な影響はみられなかった。ここでは東電問題とJCO事故との違いを分析する。

図8は認知度を比較したものである。JCO事故の場合「よく覚えている」は、2ヵ月後83.6%から1年後71.1%に、さらに2年3ヵ月後は56.4%へと、時の経過とともに著しく減少している。東電問題（調査票では、「東京電力による原子力発電所のひび割れなどのトラブル隠し」と表現）の場合、2ヵ月後の時点でも53.7%と少なく、JCO事故の2年3ヵ月後のレベルである。

表3は「原子力」からの自由連想の結果の一部である。JCO事故の場合、2ヵ月後に「臨界」「JCO」と記述したのは532人中20人である。「原子力」という言葉からすぐに想起するほど強い印象を受けていたといえる。2002年には1061人中4人に減少している。事故から16年以上経過したチェルノブイリ関係の記述人数が一定数を保っているのと比較すると、印象度の違いをうかがうことができる。東電問題の場合、関連すると思われる語を記述したのは「東電」「東京電力」3人、「老朽化」2人、「隠蔽」「情報隠し」「事故隠し」が4人の計9人のみと非常に少ない。報道で頻繁に使用された「ひび割れ」「トラブル隠し」の記述はない。2002年の調査時期前には北朝鮮の核開発問題が表面化していたが、「北朝鮮」と記述したのは7人おり、東電問題とあまり変わらない。

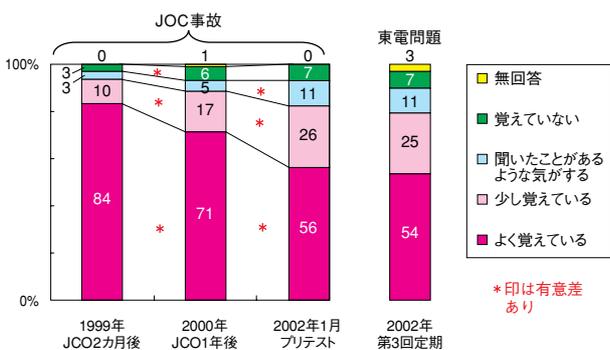


図8 JCO事故の認知度と東電問題の認知度

表3 「原子力」からの自由連想で事故・事件関連の言葉を記述した人数

調査年 (標本数)	1999年 JCO2ヵ月後	2000年 JCO1年後	2002年 第3回定期
自由記述に含まれる語	532人	1056人	1061人
チェルノブイリ	27	47	36
JCO, 臨界, 東海村の事故, のいずれか	20	32	4
東電, 東京電力, 老朽, 隠蔽, 情報隠し, 事故隠し, トラブル隠し, ひび割れ, のいずれか	0	0	9
北朝鮮	1	1	7

5.1.2 マスメディア接触度と東電問題認知度

表4は新聞接触度と認知度の関係について、JCO事故2ヵ月後と東電問題後を比較している。JCO事故の場合「よく覚えている」は、新聞よく読む層では88.9%、やや読む層では84.7%、あまり読まない層では71.4%と大きな差はない。一方、東電問題の場合「よく覚えている」は、新聞よく読む層では69.5%、やや読む層では52.5%、あまり読まない層では33.3%と顕著な差があり、認知度に新聞接触度が強く反映されている。テレビニュース接触度と認知度の関係(表5)にも同様の傾向がみられる。JCO事故ではマスメディアへの接触が少なくとも十分認知されていたのに対し、東電問題ではマスメディアによく接触する層には認知されているが、接触が少なくなると認知度が大きく低下している。JCO事故と東電問題では報道の量や質に違いがあった可能性がある。

表4 新聞接触と認知度の関係 -JCO事故と東電問題の比較

新聞接触度(列%) 無回答表示せず	認知度(行%)				
	よく覚えている	少し覚えている	聞いたことがあるような気がする	覚えていない	無回答
JCO事故 よく読む(38.9%)	88.9	8.2	1.0	1.4	0.5
(1999年) やや読む(40.4%)	84.7	10.2	3.7	1.4	0
あまり読まない(19.7%)	71.4	13.3	7.6	7.6	0
東電問題 よく読む(36.8%)	69.5	20.3	7.4	1.3	1.5
(2002年) やや読む(37.5%)	52.5	26.9	9.3	7.3	4.0
あまり読まない(25.4%)	33.3	30.4	17.4	14.8	4.1

表5 テレビニュース接触と認知度の関係 -JCO事故と東電問題の比較

テレビニュース接触度(列%) 無回答表示せず	認知度(行%)				
	よく覚えている	少し覚えている	聞いたことがあるような気がする	覚えていない	無回答
JCO事故 よく見る(50.8%)	87.4	7.8	3.0	1.5	0.4
(1999年) やや見る(41.0%)	82.6	11.5	2.8	3.2	
あまり見ない(7.5%)	62.5	20.0	10.0	7.5	
東電問題 よく見る(50.3%)	67.4	20.8	6.9	1.9	3.0
(2002年) やや見る(36.9%)	42.3	30.9	13.8	9.9	3.1
あまり見ない(12.5%)	33.1	27.8	16.5	18.8	3.8

5.1.3 新聞報道量

JCO事故と東電問題に関するマスメディアの報道量を比較するために、数値データによる把握が容易な新聞記事数を取りあげる。表6はG-Searchデータベースサービスによって提供されている読売新聞記事情報、朝日新聞記事情報、毎日新聞記事情報、産経新聞記事情報から、当該事故・事件から2ヵ月半の間に、タイトルまたは本文に検索語が含まれる記事を検索した結果である。読売・朝日・毎日のデータベースには地方本社や地方版の記事も含まれるため、関西地区ですべての記事が報道されたわけではないが、新聞報道量の簡易的な指標の1つになる。4紙の記事数の差は、収録記事範囲など各社のデータベースの特徴にも大きく依存するため、新聞社を単純に比較するのは適切ではないが、いずれの新聞社においても、東電問題関連の記事数はJCO事故関連の4分の1から2分の1であり、明らかに少ない。この時期北朝鮮の拉致問題や核問題についても相当量の報道がなされていたことは、自由記述で原子力と結びつけて「北朝鮮」があげられていたことに符合する。

表6 データベースで検索した事故・事件関連の新聞記事数

対象期間	検索語	読売	朝日	毎日	産経
1999.9.30 ~12.15	JCO or 臨界	1338	993	1468	521
2002.8.29 ~11.15	(東京電力or東電)and(原子力発電or原発orトラブル隠し)	604	585	757	132
	北朝鮮 and 核	405	408	605	355
	北朝鮮 and 拉致	1503	1506	2182	895

5.2 考察

東電問題は、世論への影響があったJCO事故と比較すると、認知度が低く、強い印象を受けた人も少ないという点で異なっていた。事故に強い印象を受けた集団では原子力発電に対してネガティブな方向への態度変化が大きいことは、松田(1998)が個人の回答変化を追跡できるパネル調査で確認している。認知度が低く、強い印象を受けた人も少なかったことが世論への影響がなかったことに関連していると推定される。

東電問題とJCO事故では、マスメディア接触度と認知度の関係に違いがあった。マスメディアの報道の量や質に違いがあったのではないかと推測されるこ

とから、新聞報道量を分析した。東電問題の新聞報道量はJCO事故の2分の1より少なく、量的な差があったことが確認された。認知度は覚えている程度を聞いたものであり、東電問題の認知度が低かったということは、記憶に残りにくかったことを意味する。東電問題では新聞報道量が少なかったため、事件に関する情報が公衆の目に触れる機会がJCO事故よりも少なく、新聞への接触が少なればさらに機会が少なくなるために、記憶に残りにくかったと解釈すれば、新聞報道量とマスメディア接触度と認知度をデータに矛盾せず関係付けることができる。認知度を媒介変数とすることによって、マスメディアの報道が世論に影響を与えていることを説明できる実証的データとなる。

東電問題が記憶に残りにくかった背景を考察しておく。東電問題と同時期には北朝鮮の核問題についても多くの報道がなされていたこと、原子力の自由連想で北朝鮮を記述する人が東電問題と同程度あったことから、東電問題よりも北朝鮮の核問題のほうに関心や注意を向けた人が存在したことが推測される。日本人拉致被害者の帰国によって北朝鮮に対する関心が非常に高まっていた中で、北朝鮮が核兵器開発を認めたという調査当時の状況からも理解できる。現実社会ではさまざまな分野で事件や問題が並行して発生している。公衆が社会的な問題に割く関心の量が無限でないとすれば、同時期に発生していた他の大事件に関心が分散したために、記憶に残りにくかった可能性が考えられる。

その他に記憶に残りにくかった要因として、東電問題は事故ではなかったという点でインパクトがJCO事故とは異なっていた可能性が考えられる。過去のもんじゅ事故ではナトリウム漏れ現場や放射線防護服姿の作業員の姿が、また、JCO事故では被爆作業員の様子、避難や退避をする住民の様子、自らの被曝を心配する住民の声などが写真や映像を交えて豊富に伝えられていた。東電問題は事故ではないために目に見える被害はなく、報道内容にインパクトがなかったのではないかと思われる。本稿で検討したのは新聞記事数という量的な差についてのみであるが、写真や図の有無、見出しや記事の大きさ、掲載面などの質的な差を分析することによって、報道のインパクトの違いを明らかにすることができるのではないと思われる。今後の課題である。

東電問題の報道量が少なかったということは、JCO事故ほど社会的に大きく取り上げられなかったという

ことである。これには事件発生後の東京電力の対応も1つの要因として考えられる。林・加留部・北田・北條(1996)は、企業の長に対して公衆が最も重視する望ましいイメージは「トラブルがあった時に第一線で対応する」ことであるとの調査結果を報告している。東電問題では事件発覚当日から企業のトップがマスメディアの対応にあたり、その姿が伝えられた。また、発覚から4日後には企業トップの引責辞任の決定が発表された。これらの対応は、公衆の求めるイメージに合うものであり、責任追及という観点からその後の報道に影響を与えた可能性がある。

6. 第3の分析 事業者への信頼

6.1 結果

6.1.1 東電問題認知度との関係

東電問題では原子力発電を行う事業者に対する信頼の失墜が懸念される。第1の分析から調査対象集団全体では東電問題の影響はほぼないことが明らかになったが、集団全体の有意な変化には至らなくとも、集団の一部の層において意識や態度に変化があった可能性はある。第2の分析で世論への影響がなかったことに東電問題の認知度の低さが関連していると推定されたことから、東電問題認知度の高い層に着目する。東電問題を覚えていなければ東電問題の影響は生じないであろうし、よく覚えているほど影響は生じやすいと考えられる。東電問題認知度の高い層において低い層よりも相対的に大きな変化があれば、東電問題認知度と個別の質問が独立ではなく相関をもつことになる。認知度が世論への影響がなかったことに関連しているならば、そのような相関が観察されるはずである。ただし、東電問題認知度の差は認知の差だけではない質的な差を含んでいることが考えられるので、相関が東電問題の影響によるものだけとは限らない。つまり、相関分析は、①東電問題認知度の高い層で影響があった可能性の有無を調べる、②認知度の低さが世論への影響がなかったことに関連するという結論に矛盾しないことを確認するという意味をもつ。

χ^2 検定により個別の質問項目と東電問題認知度の関係の有無を判定し、関係がある項目についてはSpearmanの順位相関分析により相関関係の有無を判定した。表7に結果をまとめている。「関係あり」の

欄には、 χ^2 検定で有意であり、かつSpearmanの相関が有意である項目を示している。相関係数は-1から1の値をとり、符号が正であれば、東電問題の認知度が高いほど程度が大きい、あるいは選択率が高いことを意味する。ただし、意識調査のデータではそれほど高い相関係数は得られない。「関係あり」の項目に着目して3群に分類した。A群は原子力発電に関連のない一般的な質問、B群は原子力発電関連の質問(原子力関連の項目と並列で質問している項目を含む)、C群は事業者への信頼の質問である。

表A群から、科学・科学技術観、人に対する一般的な信頼感は東電問題認知度と関係ないが、マスメディア接触、知識、エネルギー・環境関心は東電問題認知度と0.3前後の正の相関がある。これは、他の項目に比べて高い相関である。東電問題で変化するのは考え難い内容であるので、東電問題認知度を規定する要因であるか、共通の要因をもつために生じる相関だと考えられる。これらは東電問題認知度で層別した場合にみられる層の特徴だといえる。

表B群から、不安やリスク感に関しては、病気、交通事故関係、戦争、経済の混乱という一般的な項目は東電問題認知度と関係ないが、原子力や環境破壊関連は東電問題認知度と正の相関がある。環境破壊関連の相関はA群の環境関心に起因すると容易に推測できる。原子力発電への態度に関しては、賛成意見のうち「電源バランスよい多様化で安定」に正の相関、反対意見のうち「老朽化で安全性低下」「廃棄物処分未確立」「安全信頼できない」「世界的廃止傾向」に0.17~0.18の正の相関がある。利用についての意見は東電問題認知度と関係ない。つまり、東電問題認知度の高い層は原子力発電を否定しているのではないが、その問題点を強く意識している傾向がある。相関があるのは内容的に東電問題に関連する項目に限定されないこと、しかし、関連する項目には相関があり相関係数もやや高いことから、これらの相関は、A群で示したような層の特徴の反映である可能性と東電問題の影響である可能性がある。これら2つを分離することはできないが、おそらく両方の要因によるものだろうと推測される。

表C群が事業者への信頼に関する項目である。原子力発電所幹部のイメージでは「エリート」「責任感が強い」は東電問題認知度と関係ないが、「情報を隠している」は0.16、「責任感がない」は0.15、「優秀な技術者」は-0.10の相関がある。真実公表への不信は0.29で、C群の中では最も高い正の相関がある。一

方、職場の安全風土への信頼は東電問題認知度と関係ない。

表7 東電問題認知度と個別の質問の関係についての検定結果

(χ^2 値, 自由度) | 相関係数|

		χ^2 検定 ^{注1} で関係あり(P<0.05) かつ Spearman の順位相関が有意なもの *P<0.05 **P<0.01	χ^2 検定で関係なし(P>=0.05)
A群		<p>【マスメディア接触】 新聞を読む程度(103.6, 6){0.30**} テレビニュースを見る程度(114.4, 6){0.32**}</p> <p>【知識】 原子力発電知識(67.5, 6){0.25**} 電力自由化認知度(146.6, 9){0.36**} チェルノブイリ事故認知度(510.7, 9){0.56**}</p> <p>【エネルギー・環境関心】 地球環境問題関心(143.0, 9){0.36**} エネルギー問題重要性認識(125.4, 12){0.30**}</p>	<p>【科学・科学技術観】 科学の発展と人間らしさ(15.5, 9) 自然と人間の関係(3.3, 6) 情報化社会は望ましいか(8.4, 9) 機械化と人間らしさ(9.7, 9) 今後25年間の実現可能性—原子力廃棄物の安全な処理方法(13.0, 9), 宇宙ステーションでの生活(12.2, 9)他1</p> <p>【人に対する一般的な信頼感】 他人の役に立とうとする(4.6, 6) スキあれば利用する(3.2, 6) たいていの人信頼できる(8.2, 6)</p>
B群	【不安 リスク感】	<p>【身近な不安】 原子力施設事故(50.0, 12){0.19**}</p> <p>【リスク感】 チェルノブイリのような事故(18.5, 6){0.11**}</p> <p>【事故等の不安】 原子力施設事故(77.2, 12){0.25**} 原子力廃棄物の処理処分(69.1, 12){0.24**} 地球規模の環境破壊(61.9, 12){0.20**} 身近な環境破壊(40.4, 12){0.16**} エイズ(21.7, 12){0.08**}</p>	<p>【身近な不安】 重い病気(11.5, 12) 交通事故(15.2, 12) 他2</p> <p>【リスク感】 戦争(2.9, 6), 経済の混乱(8.2, 6)</p> <p>【事故等の不安】 新幹線事故(12.3, 12) 道路交通事故(14.7, 12) 他1</p>
	【原子力発電 への態度】	<p>【賛成意見】 電源バランスのよい多様化で安定(18.2, 3) {0.13**} 他1</p> <p>【反対意見】 老朽化で安全性低下(34.6, 3){0.18**} 廃棄物処分未確立(33.8, 3){0.17**} 安全信頼できない(30.0, 3){0.17**} 世界的廃止傾向(28.3, 3){0.17**} 大事故の被害大きすぎる(22.5, 3){0.14**} 他3</p>	<p>【賛成意見】 石油資源節約(3.8, 3) 燃料備蓄で安定(4.4, 3) 他6</p> <p>【反対意見】 放射能汚染のおそれがある(2.3, 3) 新規建設受け入れ地なし(1.6, 3) 原子力発電以外で電力十分(4.1, 3)</p> <p>利用についての意見(15.7, 9) 原子力発電は安全だという話や記事への共感(19.3, 12)</p>
C群	【事業者への 信頼感】	<p>【原子力発電所幹部イメージ】 情報を隠している(25.9, 3){0.16**} 責任感がない(23.1, 3){0.15**} 優秀な技術者(14.1, 3){-0.10**} 安全に心を砕いている(8.5, 3){0.09**}</p> <p>真実公表への不信(109.3, 12){0.29**}</p>	<p>【原子力発電所幹部イメージ】 エリート(5.3, 3) 責任感が強い(6.3, 3), 他2</p> <p>職場の安全風土への信頼(2.1, 3)</p>

注1: χ^2 検定にあたっては無回答を除く

6.1.2 真実公表への不信

真実公表への不信について東電問題認知度別の回答分布を図9に示している。東電問題認知度が高いほど本当のことを公表していないと思うという回答が多い。2002年調査では「非常に」「やや」そう思うと回答した775人に、その内容と理由を質問している。76.5%の人が公表されていない内容として「安全性をゆるがす重大な内容」をイメージしており、「安全性に大きな支障のない内容」は22.5%にとどまる。理由は図10に示している。「これまでに情報隠しなどの不祥事があった」が73.5%で最も多い。理由を1つに限定した場合でも「原子力に限らず、国も企業も本当のことすべては公表しない」と並び3分の1を占めている。国や企業に対する一般的な不信の投影といった面も強いが、不祥事があったことが不信感の最大理由と認識されている。

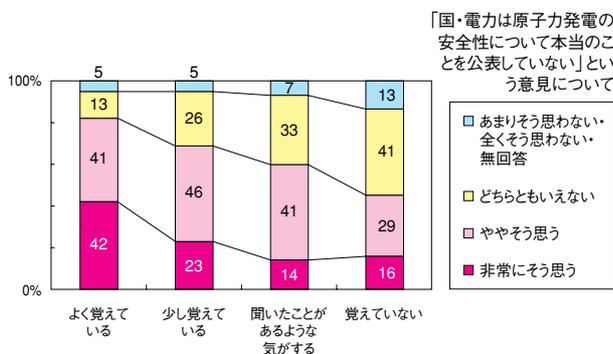


図9 東電問題認知度別 真実公表への不信

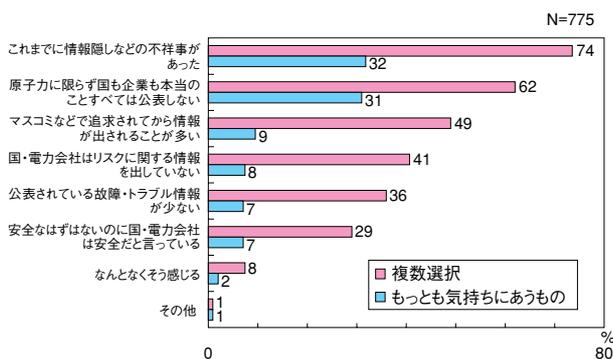


図10 真実公表への不信の理由

6.1.3 職場の安全風土への信頼

東電問題では組織における安全文化 (safety culture) に問題があったと指摘されている (原子力安全委員会 2002)。安全文化とは「原子力プラント

の安全の問題には、その重要性にふさわしい注意が最優先で払われなければならない。安全文化とは、そうした組織や個人の特性と姿勢を集約したものと定義されている (INSAG-4 1991)。福井 (2001) は、安全文化のなかでも個人より組織環境に焦点をあて「安全風土」という概念を提唱している。2002年調査では、職場の安全風土への信頼における東電問題の影響をみるために、「原子力発電所の職場では安全に運転することが最も優先される目標となっていると思うか」という質問を新たに加えた。「そう思う」は74.1%で大多数を占めている。図11は東電問題認知度別の回答分布を示している。東電問題認知度と関わりなく比率はほぼ一定であり、図9との違いは明瞭である。

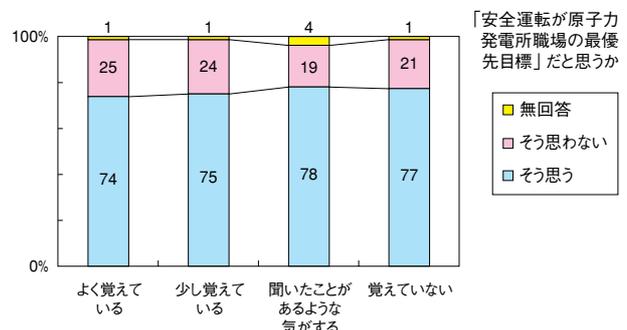


図11 東電問題認知度別 職場の安全風土への信頼

6.2 考察

東電問題認知度の高い層はマスメディア接触、知識、エネルギー・環境関心が高く、認知度以外の質的な差があることが確認された。原子力発電への反対意見として「老朽化で安全性低下」「安全信頼できない」、原子力施設事故の不安、原子力発電所幹部のイメージとしての「情報を隠している」「責任感がない」、真実公表への不信は、東電問題に関連すると思われる内容である。いずれも東電問題認知度と相関があり、東電問題認知度が高いほどネガティブであった。つまり、認知度の低さが世論への影響がなかったことに関連するという第2の分析の結論に矛盾しない。この傾向は層の特徴の反映として解釈することも可能であるし、東電問題認知度の高い層ほど変化があったために生じたと解釈することも可能である。本稿での探索的な分析からは可能性を示唆するにとどまる。

しかし、①原子力施設事故の不安、原子力発電所

幹部のイメージ「情報を隠している」「責任感がない」は、調査対象集団全体では有意なレベルではないがネガティブな回答の比率が低下していたのに対し、真実公表への不信は微増していた。②真実公表への不信は東電問題認知度との相関係数が他の項目よりも高かった。③真実公表への不信の理由として「これまでに不祥事があった」が最も多かった。これらを総合すると、真実公表への不信については、層の特徴の反映だけではなく、東電問題認知度の高い層におけるネガティブな影響が含まれている可能性が高いと考えられる。

一方、職場の安全風土への信頼は高く、東電問題認知度と独立であった。東電問題認知度の高い層においても低い層と信頼に変わりがないことから、東電問題の影響はなかったと評価することができる。本調査で質問したのは安全文化の1つの側面に過ぎず、この1問によって安全文化への信頼について結論することはできないが、原子力発電所の職場で安全がなおざりにされて運転されていると思う人は多くはない。少なくともその面での信頼は得ており、東電問題によっても損なわれてはいないことが確認された。

7. まとめ

1993年から継続して実施している原子力発電に関する世論調査データを用いて東電問題が公衆の原子力発電に対する態度に及ぼした影響を検討した。

第1の分析では時系列比較をおこなった。東電問題発覚2ヵ月後は直近の2000年調査と比較して、原子力の事故への不安やリスク感、原子力発電に関わる組織へのイメージや信頼感、原子力発電の利用についての意見、原子力発電に対する総合的態度のいずれにおいても否定的な変化はなかった。1993年からの時系列推移もふまえて評価した結果、東電問題の世論への影響はほぼないことがわかった。

第2の分析では認知度とマスメディアの報道の関係を探った。世論への影響がなかった要因を世論調査データから直接把握することはできないが、継続調査のメリットを生かし、世論への影響があった過去のJCO事故時のデータと比較し、違いを分析した。東電問題はJCO事故に比べて認知度が低く、強い印象を受けた人が少なかったことから、認知度が低かったことが世論への影響がなかったことに関連してい

ると推定された。東電問題とJCO事故では認知度とマスメディア接触度の関係に違いがあり、JCO事故ではマスメディアへの接触が少ない層でも認知度が高かったが、東電問題ではマスメディアへの接触が少なくなると認知度が大きく低下していた。ここから推測されるマスメディアの報道の違いは、新聞報道量の分析の結果、東電問題関連の記事がJCO事故の2分の1以下と少なかったことによって裏付けられた。これによって、認知度が低かったことをマスメディアの報道から説明することができた。報道が少なかったから認知度が低かった、認知度が低かったから世論への影響がなかったという因果関係を証明するものではないが、認知度を媒介変数とすることによって、マスメディアの報道が世論への影響に関連していることを説明できる実証的データを得たという点において意義がある。データによって現象を理解し解明するという立場から、このようなデータが蓄積されれば、マスメディアの報道と世論への影響についての知見が深まることが期待できる。

第3の分析では事業者への信頼について検討した。時系列比較によって調査対象集団全体では影響がなかったことから、認知度の高い層における影響の有無を、東電問題認知度と個別の質問との相関分析によって探ることを試みた。「国や電力会社は原子力発電の安全性について本当のことを公表していない」という真実公表への不信を抱く人は7割以上あり、東電問題認知度と比較的高い相関があった。東電問題認知度の高い層はマスメディア接触、知識、エネルギー・環境関心が高いなど、認知度が低い層との間に質的な差があったので、この相関が層の差を反映したものである可能性がある。単純には、認知度の高い層において東電問題の影響があったために生じたものと解釈することはできないが、不信の理由なども総合して評価すると、東電問題認知度の高い層における影響が含まれている可能性が高いと考えられる。一方、安全風土に関して「安全運転が原子力発電所職場の最優先目標になっている」との信頼は高く、東電問題認知度と独立であり、東電問題の影響はなかったことが確認された。

真実公表への不信以外にも原子力発電に関する複数の質問に東電問題認知度との相関があった。前述したようにこの相関は、認知度で層別した場合の層の質的な差によっても生じるし、認知度で影響が異なることによっても生じる。いずれに起因するもの

か、また両方に起因するものかは判別できない。相関分析では限界がある。もし、後者に起因するならば、調査対象集団全体では影響が現れるには至らなくても、東電問題認知度の高い層では影響があったことを意味し、世論への影響がなかったことに認知度の低さが関連しているという第2の分析結果と整合性をもつものである。

調査結果は東電問題発覚から2ヵ月後の関西地区（関西電力供給地域）におけるものである。アスファルト固化施設事故とJCO事故の場合には、事故現場である東海村を含む関東地区も関西地区と影響は異ならなかったことが報告されている（松田，1998）（北田・林，2000）。ただし、東電問題に関しては、関東では「東電」という言葉にもう少し強い関心が喚起され、認知度が高かった可能性がある。さらに、東京電力供給地域ではその後、原子力発電所の停止に伴う電力不足の恐れから節電キャンペーンが展開されている。調査時点以降の状況の進展が、従来の事故の場合とは異なる意外な影響を与えている可能性があることを付記しておきたい。

引用文献

- (<http://nsc.jst.go.jp/anzen/s-d/03.pdf> 2003/5/15)
- IAEA 1991 INSAG-4 Report; Safety Culture Safety Series, 75, Vienna.
- 福井宏和 2001 原子力発電所における安全風土に関する研究 *Journal of the Institute of Nuclear Safety System*, **8**, 2-13.
- 林知己夫・加留部清・北田淳子・北條真 1996 日本における長のイメージ *Journal of the Institute of Nuclear Safety System*, **3**, 90-132.
- 松田年弘 1998 原子力発電に対する態度変容について－縦断的調査結果の分析－ *Journal of the Institute of Nuclear Safety System*, **5**, 2-21.
- 北田淳子・林知己夫 2000 東海村臨界事故が公衆の原子力発電に対する態度に及ぼした影響 *Journal of the Institute of Nuclear Safety System*, **7**, 25-44.
- 朝日新聞 2002.10.8 原発事故「不安」9割 第1面
- 大隅昇 2002 インターネット調査の適用可能性と限界－データ科学の視点からの考察－行動計量学, 29巻, 1号, 20-54.
- 鈴木達三・高橋宏一 1991 標本抽出の計画と方法 財団法人放送大学教育振興会
- 北田淳子・林知己夫・阿登一憲 2001 JCO事故が公衆の原子力発電に関する意識に与えた影響とその推移 日本リスク研究学会第14回研究発表会講演論文集, 14, 259-262.
- 北田淳子・林知己夫 1999 日本人の原子力発電に対する態度－時系列から見た変化・不変化－ *Journal of the Institute of Nuclear Safety System*, **6**, 2-23.
- 原子力安全委員会 2002 Safety Dialog, vol3, 8.

質問と集計

本論文と関係ある部分のみ掲載，回答率数字は左から，もしくは上から2000年，2002年とする。

問1 あなたはふだん新聞をよくお読みになりますか、それともあまりお読みになりませんか。

1 よく読むほう	36.4	36.8
2 やや読むほう	40.2	37.5
3 あまり読まないほう	22.1	25.4
NA	1.4	0.3

問2 あなたはふだんテレビでニュースや報道番組をよく見ますか、それともあまり見ませんか。

1 よく見るほう	47.5	50.3
2 やや見るほう	43.1	36.9
3 あまり見ないほう	9.2	12.5
NA	0.2	0.2

問3 あなたはふだん情報をどのようなものから得ていますか。次の中から当てはまるものをいくつでも選んでください。

1 新聞（朝日、読売、毎日等全国紙）	72.0	74.6
2 新聞（京都新聞等の地方紙、東京新聞等ブロック紙）	10.1	9.6
3 特定分野の業界紙	3.5	3.7
4 スポーツ新聞	11.0	15.6
5 夕刊紙（夕刊フジ、日刊ゲンダイ等）	2.7	5.4
6 テレビ	89.5	88.3
7 ラジオ	26.2	25.5
8 月刊誌	7.9	6.5
9 週刊誌・隔週誌	15.1	13.5
10 情報雑誌	10.6	9.0
11 特定分野の専門紙・雑誌	8.6	7.8
12 折り込み・チラシなど	32.6	29.3
13 駅・電車の車内広告	13.8	12.8
14 友人・知人などの口コミ	34.8	31.1
15 行政機関が発行している小冊子など	6.3	7.4
16 パンフレットなど	10.2	8.1
17 インターネット	12.4	17.8
18 その他	0.8	0.7

問4 最近、国内や国外、地球全体の環境問題がよく報道されています。あなたは、この問題にどの程度関心がありますか。

1 関心がある	37.5	41.5
2 少し関心がある	50.0	45.2
3 あまり関心がない	10.2	10.9
4 関心がない	2.1	2.2
NA	0.2	0.2

問5 こういう意見があります。「世の中は、だんだん科学や技術が発達して、便利になってくるが、それにつれて人間らしさがなくなっていく」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1 賛成（人間らしさは減る）	33.0	36.0
2 いちがいいはいえない	59.3	57.6
3 反対（人間らしさ不変，増える）	5.0	5.3
4 その他	0.7	0.8
NA	2.1	0.4

問7 私たちが社会生活を送っていく上で、いろいろ「危険なこと」が考えられます。次のような危険といたら何を思い浮かべますか。ア、イ、ウ、エのそれぞれについて具体的にお答えください。（回答略）

- (ア) 自然災害
- (イ) 自分ではどうすることもできなくて、思いがけなく巻き込まれる人為的災害（自然災害を除く）
- (ウ) 自分がしたいことをしたり、しなければならぬことをする時に、起きるかもしれない人為的危険（自然災害を除く）
- (エ) 今お答えいただいたものの中で、あなたが一番危険だと感じているものを1つだけお知らせください。

問9 こういう意見があります。「どんなに世の中が機械化しても、人の心の豊かさ（人間らしさ）は減りはしない」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1 反対（減る）	28.8	29.1
2 いちがいいはいえない	55.1	53.2
3 賛成（減らない）	15.1	16.1
4 その他	0.3	0.6
NA	0.8	1.0

問10 自然と人間との関係について、次のような意見があります。あなたがこのうち真実に近い（ほんとうのことに近い）と思うものを、1つだけ選んでください。

1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない	36.3	34.8
2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない	58.0	58.7
3 人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない	3.6	4.3
NA	2.1	2.2

問11 コンピュータがいろいろなところに使われるようになり、情報化社会などということが言われています。このような傾向が進むにつれて、日常生活の上で変わっていく面があると思います。あなたは、このような変化をどう思いますか。

1 望ましいことである	23.4	23.8
-------------	------	------

- 2 望ましいことではないが、避けられないことである 64.7 62.8
- 3 困ったことであり、危険なことでもある 5.6 5.9
- 4 その他 4.8 5.6
- NA 1.5 2.0

問12 「原子力」といったら、何を連想しますか。自由にお答えください。（回答略）

問13 次にあげるア～ウの事柄についてあなたはどう思いますか。それぞれについてお答えください。

- (ア) 病気の中には近代医学とは別の方法で治療したほうがよいものもある
 - 1 まったくそのとおりだと思う 15.0 16.5
 - 2 そう思う 56.3 56.9
 - 3 そうは思わない 19.6 18.5
 - 4 決してそうは思わない 6.4 5.4
 - 5 その他 1.5 1.9
 - NA 1.1 0.8

(イ) 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる

1 まったくそのとおりだと思う	1.4	1.6
2 そう思う	9.5	7.3
3 そうは思わない	60.0	62.6
4 決してそうは思わない	27.5	27.2
5 その他	0.7	0.9
NA	0.9	0.4

(ウ) 今日我々が直面している経済的・社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される

1 まったくそのとおりだと思う	0.9	1.0
2 そう思う	6.3	7.2
3 そうは思わない	71.6	66.5
4 決してそうは思わない	19.2	23.2
5 その他	0.9	1.2
NA	1.0	0.8

問18 次のようなことが日本で起こる可能性はどのくらいだと思われますか。

- (ア) 戦争
 - 1 起こらない 40.4 30.3
 - 2 起こりそう 13.0 22.6
 - 3 どちらともいえない 46.3 46.8
 - NA 0.4 0.3

問8 時々、自分自身のことや家族のことで不安になることがあると思います。あなたは、次のような危険について不安を感じることはありますか。

	非常に感じる	かなり感じる	少し感じる	まったく感じない	その他	NA
(ア) まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか……	25.9	28.8	39.6	4.5	0.4	0.8
	26.8	25.2	40.6	6.5	0.1	0.8
(イ) では、「交通事故」についてはどうでしょうか……	30.4	34.0	32.3	1.7	0.1	1.5
	29.4	36.7	30.5	2.0	0.1	1.3
(ウ) では、「失業」についてはどうでしょうか……	17.0	21.0	40.0	15.4	3.3	3.2
	16.9	21.5	37.2	16.6	4.7	3.1
(エ) では、「戦争」についてはどうでしょうか……	13.3	12.4	42.5	27.7	1.7	2.5
	17.2	16.6	45.9	16.9	1.4	2.1
(オ) では、「原子力施設の事故」についてはどうでしょうか……	20.9	23.8	40.4	11.5	1.3	2.1
	20.4	23.5	41.4	11.8	1.8	1.2

(イ) チェルノブイリのような原子力発電所の
の重大事故

1 起こらない	8.9	10.3
2 起こりそう	53.8	48.3
3 どちらともいえない	36.8	41.3
NA	0.5	0.2

(ウ) 預貯金が無価値になるような経済の混
乱

1 起こらない	19.3	17.0
2 起こりそう	38.5	46.8
3 どちらともいえない	41.5	35.9
NA	0.7	0.3

問22 最近ではエネルギーの問題が話題にな
ることがしばしばあります。あなたご自身は
このことは重要な問題だと思いますか。

1 非常に重要である	42.1	38.9
2 重要である	46.5	50.4
3 あまり重要でない	9.3	8.1
4 重要でない	0.6	1.6
5 その他	0.7	0.6
NA	0.9	0.4

問23 現在の日本の発電能力は十分だと思
いますか、それとも不足していると思
いますか。

1 十分	13.4	15.0
2 やや十分	16.5	18.2
3 ちょうどよいくらい	31.5	35.2
4 やや不足	27.8	20.1
5 不足	9.7	10.1
NA	1.1	1.4

問24 それでは、10年後を考えた時、日本の
発電能力は需要をまかなうだけの供給が
できると思いますか、それともそうは
思いませんか。次にあげるもののうち、
1つに○をつけてください。

1 十分まかなうことができると信じている	24.5	29.6
2 供給能力に多少不安を感じる	65.2	62.5
3 現状からみて供給できそうにないので、 不安を強く感じている	8.5	6.6
NA	1.8	1.3

問27 電力の供給をふやせば、経済のゆとり
や快適な生活ができるが、公害や環境汚
染、自然破壊がそれに伴います。電力の
供給をふやさなければ、公害や環境汚
染、自然破壊が抑えられますが、経済
力が低下し生活の不便を我慢しなければ
ならなくなります。この点についてあ
なたのお考えをお聞かせください。こ
こにある5枚のシールを、あなたの気持
ちに
応じてA、B 2つの意見にふりわけ、下
の枠内にはりつけてください。

A：ある程度の公害や環境汚染・自然環境が
ともなうことがあっても、経済のゆとり
や快適な生活のため、電力供給をふやす。

平均	2.08	2.34
0枚	9.6	6.5
1枚	20.0	15.0
2枚	30.9	33.6
3枚	23.2	29.7
4枚	6.3	9.5
5枚	3.8	4.1
NA	6.3	1.5

問14 次にあげることは今後25年の間に実現すると思
いますか。ア～エのそれぞれについてお
答えください。

	たぶん 実現する	可能性は 低い	実現 しない	その他	NA
(ア) まず、「原子力廃棄物の安全な処理方法 (永久処分技術)」についてはどうですか	23.5	55.2	17.8	1.9	1.6
(イ) 「ガンの治療方法の解明」についてはどうですか	29.8	51.2	15.6	2.3	1.2
(ウ) 「老人性痴呆症(ぼけ)の治療方法の解明」 についてはどうですか	59.8	33.9	4.4	1.1	0.9
(エ) 「宇宙ステーションでの生活」については どうですか	65.8	26.8	5.3	1.3	0.8
(ア) まず、「原子力廃棄物の安全な処理方法 (永久処分技術)」についてはどうですか	29.2	51.5	16.9	1.7	0.8
(イ) 「ガンの治療方法の解明」についてはどう ですか	32.5	49.0	16.0	1.8	0.7
(ウ) 「宇宙ステーションでの生活」については どうですか	30.6	34.1	31.3	2.9	1.1
(エ) 「宇宙ステーションでの生活」については どうですか	23.1	39.2	34.3	2.5	0.9

問15 次にあげる事柄は、あなたにとってどのくらい重要な問題
ですか。ア～オのそれぞれについてお答え
ください。

	非常に 重要	重要	どちら とも いえない	あまり でない 重要	重要 でない	NA
(ア) 航空機(旅客用)の発達	9.5	28.6	30.2	24.2	6.8	0.7
(イ) エイズ問題	8.1	28.7	29.0	24.3	8.8	1.1
(ウ) 原子力発電	25.7	37.7	24.1	8.6	3.3	0.7
(エ) 臓器移植	23.4	37.2	22.3	10.7	4.7	1.7
(オ) 身近な環境保護	19.1	38.6	30.6	7.1	3.2	1.3
(ア) 航空機(旅客用)の発達	16.3	38.9	30.7	8.7	3.8	1.6
(イ) エイズ問題	20.0	40.0	28.5	7.0	3.7	0.9
(ウ) 原子力発電	17.6	38.0	31.9	7.4	3.5	1.6
(エ) 臓器移植	43.6	45.7	8.4	1.3	0.6	0.4
(オ) 身近な環境保護	40.5	49.0	8.3	1.2	0.4	0.6

問16 では、これらの事柄は、今日の社会や人々の生活にと
ってどのくらい有用だと思いますか。ア～
オのそれぞれについてお答えください。

	非常に 有用	有用	どちら とも いえない	あまり 有用 でない	有用 でない	NA
(ア) 航空機(旅客用)の発達	22.9	49.0	19.7	6.3	1.1	0.9
(イ) エイズ治療法	21.7	50.6	17.5	7.5	1.1	1.5
(ウ) 原子力発電	46.6	41.2	10.0	1.3	0.3	0.6
(エ) 臓器移植	49.4	37.7	9.4	1.2	0.9	1.3
(オ) 身近な環境保護	25.9	39.4	24.7	6.0	2.3	1.7
(ア) 航空機(旅客用)の発達	26.4	40.2	23.1	4.5	3.6	2.2
(イ) エイズ治療法	36.5	38.0	18.6	3.7	1.8	1.5
(ウ) 原子力発電	38.3	38.5	17.2	2.6	1.6	1.8
(エ) 臓器移植	57.7	35.1	5.8	0.6	0.2	0.7
(オ) 身近な環境保護	59.3	34.5	4.8	0.1	0.4	0.9

問17 次にあげる事故や事柄についておたずねします。ちな
みに統計によれば、これらの事故による
我が国の1992年から最近10年間の死者
数は下記のとおりです。

	10年間の死者数	統計数字は左のとおりですが、こ れとは別にあなたの気持ちに即し てお答えください。それぞれにつ いてどの程度不安を感じています か。
(ア) 道路交通事故	99,303人	
(イ) 列車・電車事故(踏切事故を含む)	3,537人	
(ウ) 新幹線事故	1人	
(エ) 大型航空機事故	268人	
(オ) エイズ	1,254人 (1989年以前と2002年3月まで含む)	
(カ) 原子力施設の事故	2人	

	非常に 感じる 不安	かなり 感じる 不安	少しは 感じる 不安	全く 感じ ない 不安	その他	NA
(ア) 道路交通事故	43.3	39.6	16.0	0.4	0.2	0.6
(イ) 列車・電車事故(踏切事故を含む)	44.8	36.6	17.1	0.9	0.1	0.6
(ウ) 新幹線事故	9.2	25.9	57.2	6.2	0.4	1.1
(エ) 大型航空機事故	10.0	25.0	54.3	9.0	0.3	1.4
(オ) エイズ	8.2	15.7	54.4	20.0	0.8	0.9
(カ) 原子力施設の事故	5.5	13.3	51.8	27.6	0.4	1.4
(キ) 原子力廃棄物の処理・処分	16.4	28.1	47.1	6.6	0.5	1.3
(ク) 身近な環境破壊	16.2	27.6	45.0	8.4	1.2	1.6
(ア) 道路交通事故	19.5	23.7	39.4	14.6	0.9	1.9
(イ) 列車・電車事故(踏切事故を含む)	17.6	22.1	37.8	19.6	1.0	1.9
(ウ) 新幹線事故	27.5	28.1	35.6	6.3	0.9	1.6
(エ) 大型航空機事故	23.3	27.4	38.2	9.0	0.7	1.5
(オ) エイズ	33.0	30.0	29.2	5.3	1.0	1.5
(カ) 原子力施設の事故	23.8	31.7	35.8	6.4	0.8	1.6
(キ) 原子力廃棄物の処理・処分	33.3	38.5	25.9	1.2	0.3	0.8
(ク) 身近な環境破壊	31.9	36.9	27.0	2.5	0.4	1.4

B：公害や環境汚染・自然破壊を抑えるため経済力が低下し生活の不便を我慢しなければならなくなるとしても、電力供給をふやさない。

平均	2.81	2.65
0枚	3.8	4.3
1枚	9.7	9.7
2枚	24.0	29.8
3枚	30.2	33.6
4枚	17.4	14.9
5枚	9.5	6.2
NA	5.5	1.5

問28 あなたは、原子力発電の方法や、長所・短所など、原子力発電について知っているほうだと思いますか、知らないほうだと思いますか。

1 知っているほうだと思う	13.9	16.3
2 知らないほうだと思う	65.8	64.5
3 どちらともいえない	19.6	18.5
NA	0.7	0.8

問29 あなたは原子力発電についてどんなことをもっと知りたいと思いますか、知りたいことを次の中からいくつでも選んでその番号に○をつけてください。

1 メカニズム・しくみ	23.7	30.3
2 必要性	21.2	31.3
3 経済性	12.9	21.5
4 安全性	69.6	73.3
5 過去の故障・事故についての情報	26.9	33.7
6 事故が発生した場合の防災体制	54.1	58.2
7 放射能の影響	53.1	61.5
8 使用済み燃料や廃棄物の処理・処分対策	60.7	60.5
9 原爆との違い	15.3	24.1
10 発電所所在地の地域振興	8.1	13.0
11 その他	0.5	1.3
12 特に知りたいことはない	6.3	5.2

問30 原子力は安全だという話や記事を見聞きした時、あなたはどの程度共感できますか。

1 とても共感できる	1.9	2.9
2 少し共感できる	28.1	30.0
3 あまり共感できない	55.0	52.4
4 まったく共感できない	12.7	12.3
5 その他	1.1	1.5
NA	1.1	0.9

問31 人間は、原子力発電を人間や環境に悪い影響を与えないように上手に利用することができると思いますか、そうは思いませんか。

1 できる	18.0	22.9
2 どちらともいえない	64.3	62.6
3 できない	16.9	14.1
NA	0.9	0.4

問37 「原子力発電の安全性について国や電力会社は本当のことを公表していない」という意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

1 非常にそう思う	27.8	31.8
2 ややそう思う	43.8	41.3

(ケ) 地球規模の環境破壊	41.7	35.1	20.5	1.4	0.6	0.7	39.7	33.6	23.1	2.2	0.2	1.3
---------------	------	------	------	-----	-----	-----	------	------	------	-----	-----	-----

問19 次にあげる「雪男」から「鬼」まで、1つ1つについて、あなたはどんな感じを持ちますか。1～8の言葉をよくご覧になって、「雪男」から「鬼」まで、それぞれについて、あなたの気持ちに最もピッタリする言葉を1～8の中から1つずつ選んで、その番号に○をしてください。

	つまらない	いてほしい	あつてほしい	いる・ある	こわい	おそろしい	いてほしくない	あつてほしくない	たのしい	おもしろい	いや・嫌い	ばかばかしい	こわくない	おそろしくない	N A			
(ア) 雪男	18.4	11.6	5.7	3.4	11.4	15.6	29.3	2.9	1.8	16.5	12.3	4.1	4.1	10.5	15.2	30.9	4.4	2.0
(イ) ネッシー	14.0	25.1	6.3	1.1	4.8	20.9	23.0	1.8	2.8	12.2	25.7	6.2	1.5	4.6	20.1	24.7	2.5	2.5
(ウ) 空飛ぶ円盤・宇宙人	10.1	15.7	21.8	4.2	11.0	15.0	18.3	1.0	2.9	9.1	15.6	22.9	3.3	10.8	15.6	18.3	1.7	2.6
(エ) 幽霊・亡霊	8.7	2.0	19.3	22.3	22.7	3.6	17.4	2.2	1.8	8.1	4.3	19.4	22.4	18.7	2.9	20.1	1.5	2.5
(オ) カップ	12.0	12.3	5.3	3.3	8.5	24.3	29.4	2.7	2.2	11.0	13.4	3.0	2.3	6.6	24.2	33.7	2.8	2.9
(カ) 妖怪	12.3	4.7	2.7	10.5	20.5	11.6	33.7	1.5	2.4	11.1	7.4	3.6	9.9	15.1	12.4	36.0	1.7	2.7
(キ) 超能力・念力	11.8	17.7	29.4	2.6	5.2	15.5	14.3	0.9	2.6	9.1	17.3	30.3	3.0	4.4	16.3	16.1	1.1	2.3
(ク) 人のたたり	8.2	1.9	17.6	21.5	30.7	1.3	15.4	0.9	2.4	8.5	1.8	17.6	23.0	27.1	1.2	17.7	1.2	1.8
(ケ) 人をのろい殺すなどの怨霊	8.8	1.4	10.5	23.5	33.4	1.3	18.0	1.2	1.8	9.2	1.3	9.4	24.5	30.2	1.0	21.0	1.0	2.3
(コ) 過去や未来へ行けるタイムマシン	7.3	36.4	1.3	1.7	8.4	27.4	14.2	0.5	2.8	6.6	37.1	1.6	1.3	6.3	29.8	14.8	0.4	2.1
(サ) 龍	10.1	18.5	4.0	7.1	11.5	13.8	29.0	4.5	1.6	10.2	21.5	4.1	4.7	8.5	16.2	28.6	4.0	2.4
(シ) 鬼	12.0	5.7	4.0	11.5	19.6	9.8	31.9	4.1	1.4	10.7	6.6	4.5	12.6	17.4	12.1	31.4	3.2	1.5

問21 次にあげた公共性のある事業に、あなたは一口に言ってどういう感じを持っていらっしゃいますか。10点満点評価でお答えください。それぞれの事業について当てはまる数値のところに○をつけてください。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	利便性	高い
(ア) NTT	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	NA
平均：6.62	1.7	0.9	2.2	4.2	4.2	22.0	8.8	13.4	20.7	6.0	13.3	0.3	2.5
6.11	2.4	1.8	2.4	6.2	5.3	26.5	9.1	12.0	16.1	5.4	9.6	0.7	2.6
(イ) 都市ガス	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	NA
平均：6.83	1.0	0.5	0.9	2.9	2.2	20.7	7.0	11.5	17.1	6.8	12.2	14.2	2.8
6.66	1.0	0.7	1.3	2.6	2.9	23.5	8.2	11.7	15.5	6.7	11.5	12.0	2.5
(ウ) 上下水道	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	NA
平均：6.47	1.9	0.9	2.9	5.9	3.5	24.1	8.1	10.6	18.1	7.7	12.9	1.1	2.3
6.29	2.4	1.1	2.9	5.7	4.1	24.9	9.3	12.2	15.2	7.0	11.6	1.0	2.5
(エ) 電力	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	NA
平均：7.06	0.9	0.2	1.4	3.2	3.1	21.2	7.0	12.9	20.0	9.8	17.7	0.1	2.5
6.87	0.9	0.3	1.4	2.7	2.7	24.9	8.9	13.7	17.7	10.1	14.3	-	2.4
(オ) JR	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	NA
平均：6.22	1.6	0.9	2.1	5.7	6.3	23.9	9.3	14.8	14.8	6.2	8.6	3.7	2.2
5.80	2.7	2.1	3.6	7.4	6.6	24.4	9.2	12.4	12.9	5.6	6.8	3.7	2.6
(カ) ごみ処理	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	NA
平均：5.79	3.3	2.4	4.5	10.6	7.8	21.4	8.5	9.9	13.2	6.2	10.6	-	1.7
5.99	3.2	1.5	5.0	8.1	5.0	23.5	7.4	12.0	15.5	6.3	10.5	0.1	2.1

3 どちらともいえない 20.8 20.5 では、それはどのような内容だと思いますか。
 4 あまりそう思わない 4.8 3.7 あなたの持っているイメージに近いほうに○
 5 まったくそう思わない 1.7 1.4 をつけてください。02年 N=775
 NA 0.9 1.3 1 安全性をゆるがす重大な内容 76.5
 2 安全性に大きな支障のない内容 22.5
 NA 1.0

(00年なし)
 付問1【問37で「非常にそう思う」または「ややそう思う」を選択した人にお聞きします】

(00年なし)

付問2 [引き続き、問37で「非常にそう思う」または「ややそう思う」を選択した人にお聞きします】「本当のことが公表されていない」とあなたが思われるのは、どのような理由からでしょうか。次の中から、あてはまるものをいくつか選んで番号に○をつけてください。そして、○をつけたなかで、もっともよくあてはまる項目の番号を1つ下の枠内に書いてください。 02年 N=775

- 1 公表されている故障やトラブルの情報が少な過ぎるから 36.1 (7.4)
- 2 これまでに情報隠しなどの不祥事があったから 73.5 (31.7)
- 3 マスコミなどで追求されてから、情報がだされることが多いから 49.0 (9.3)
- 4 原子力に限らず、国も企業も本当のことすべては公表しないから 62.1 (31.1)
- 5 国や電力会社は危険性(リスク)に関する情報を出していないから 40.6 (7.5)
- 6 安全なはずはないと思うのに、国や電力会社は安全だと言っているから 29.0 (7.0)
- 7 なんとなくそう感じるから 7.7 (1.8)
- 8 その他 0.9 (0.8)
- NA - (3.5)

※括弧内の数値が1つ選択した結果

問38 あなたは、原子力発電所で働く労働者といえど何を連想しますか。当てはまるものをいくつか選んでください。

- 1 恵まれた作業環境で働いている 3.3 4.8
- 2 危険と引き替えに報酬を得ている 60.8 58.2
- 3 社会に貢献すると働きがいを感じている 8.6 9.3
- 4 正規の社員が少ない 13.0 13.5
- 5 原子力発電所の犠牲者だ 9.1 7.7
- 6 高い技能をもっている 27.1 37.8
- 7 放射線被曝の作業環境で働いている 48.3 41.5
- 8 しかたなく原子力発電所で働いている 10.9 10.8
- 9 高い報酬を得ている 13.5 17.4
- 10 地元の人の安定した働き口だ 13.9 13.4
- 11 その他 0.8 0.9
- 12 特にない 6.3 6.2

問39 それでは、原子力発電所の幹部(所長や管理者)についてはどうでしょうか。当てはまるものをいくつか選んでください。

- 1 サラリーマン 32.6 30.9
- 2 放射線被曝している 6.0 5.9
- 3 情報を隠している 39.5 34.3
- 4 安全に心を砕いている 17.0 18.9
- 5 責任感がない 20.6 15.5
- 6 エリート 17.5 18.8
- 7 優秀な技術者 32.5 40.3
- 8 地元の人 3.4 3.3
- 9 責任感が強い 7.9 13.2
- 10 その他 1.6 1.4
- 11 特にない 9.8 10.9

(00年なし)

問40 原子力発電所の職場では、安全に運転することが最も優先される目標となっていると思いますか。それともそうだとは思いません

問25 それぞれの発電方法には次のような長所・短所があると言われています。仮にあなたが電力会社の社長さんとしたら、これからの日本の発電は、どの方法を主力にするのがよいとお考えですか。長所・短所を考えあわせて最もよいと思う発電方法を1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

発電方法	長 所	短 所	平成12年度日本の発電実績* 100万kWh	1基あたり発電規模 めやす kW
1 火力発電 9.6 14.4	需要の変化に応じた発電が可能 石炭は資源が豊富	石油・天然ガスは資源の枯渇が心配される CO ₂ の排出による地球温暖化が懸念される	669,177	1,000,000
2 水力発電 10.4 5.9	自然エネルギーを利用 水資源の多目的開発が可能 CO ₂ の排出が少ない	国内には新しい適地があまりない 自然破壊につながる	96,817	300,000
3 原子力発電 19.3 19.6	安定した大量の電力供給が可能 CO ₂ の排出が少ない	極めて慎重な放射線監理が不可欠 安全性確保に厳重な設備が必要 放射性廃棄物の処分地が未定	322,050	1,000,000
4 太陽光発電 27.4 20.4	自然エネルギーを利用 CO ₂ の排出が少ない	大量の電力を得るには広大な敷地が必要 夜間や雨天時など発電不能 既存発電技術に比べコストが高い	218	50
5 風力発電 5.4 4.1	自然エネルギーを利用 CO ₂ の排出が少ない	国内には適地が少ない 風の状況により発電が不安定 既存発電技術に比べコストが高い	109	300
6 燃料電池発電 14.9 7.2	廃熱の利用により高い総合エネルギー効率が期待できる	技術開発段階 既存発電技術に比べコストが高い	74	5,000
7 地熱発電 1.8 1.0	自然エネルギーを利用 CO ₂ の排出が少ない	適地が限られている 大きな自然破壊を伴う恐れがある	3,348	50,000
8 廃棄物発電 # 8.4	廃棄物(ごみ)を利用	発電効率が低い	4,728	20,000
9 核融合発電 2.1 1.4	資源が無尽蔵	実現へのめどが立っていない	-	-

NA 8.0 17.6

*平成12年度発電電力量：電気事業便覧(平成13年度版)より。太陽光発電、燃料電池発電、廃棄物発電については各種資料からの平成11年度発電電力量推定値。

※00年は「廃棄物発電」の選択肢が無く、「波力発電」の選択肢があった。「波力発電」1.2

んか。

- 1 そうだと思う 74.1
- 2 そうだとは思わない 23.8
- NA 2.1

対意見を次にあげました。それぞれについてあなたが納得できるものを選んでその番号に○をつけてください。その他あなたがお考えになっていることがあれば、「その他()」欄にご記入ください。

問41 原子力発電についていろいろおたずねしましたが、全体としてあなたのお考えに近いものを次の中から1つだけ選んでその番号に○をつけてください。

- 1 安全性には配慮する必要があるが、原子力発電を利用するのがよい。 6.9 10.9
- 2 安全性には多少不安があるが、現実的には原子力発電を利用するのやむを得ない。 63.4 61.7
- 3 どんなにコストが高く、また環境破壊が伴うにしても、原子力発電よりも安全な発電に頼るほうがよい。 16.4 15.4
- 4 不便な生活に甘んじても、原子力発電は利用すべきではない。 11.1 8.1
- NA 2.3 3.9

(ア) 賛成意見について納得できるものをつくっても選んで、その番号に○をつけてください。

- 1 発電を原子力で行うことにより、大切な石油資源を節約できる。 25.6 34.5
- 2 使用済み燃料を再処理することにより、新たな燃料が得られるので純国産エネルギーを確保できる。 18.8 22.6
- 3 原子力・火力・水力などエネルギー源の異なる発電方法をバランスよく採用することで、わが国の電力供給の安定化に役立つ。 51.2 55.4
- 4 火力発電を減らすことができるので、大気汚染問題を抑制でき、地球環境保護に貢献している。 20.1 31.1
- 5 わずかな燃料で長時間にわたり発電できたり、燃料の備蓄が容易なので、電力供給の安定化に役立つ。 26.8 24.0

問42 原子力発電への代表的な賛成意見、反

(以下6～10の選択肢は00年はなし)

6	発電してもCO ₂ (二酸化炭素)を出さない ので、地球温暖化の防止に貢献できる。	32.0
7	日本での原子力発電による現在の発電量 を考えると、近い将来に原子力発電に代われ る発電方法はない。	15.4
8	日本では原子力発電を開始して以来、大 事故はなく安全に運転されている。	6.6
9	高速増殖炉が開発されれば半永久的な電 力用エネルギーが確保できる。	7.5
10	今後の発展途上国のエネルギー需要の増 大を考えると原子力発電は欠かせない。	14.6
11	その他	2.9 2.4

(イ) 反対意見について納得できるものをい
くつでも選んで、その番号に○をつけてくだ
さい。

1	廃棄物の処分・処理技術はまだ確立して いない。	60.5	58.8
2	原子力発電がなくても、電力は十分供給 できる。	6.2	5.4
3	放射能汚染の恐れがある。	60.9	63.5
4	原子力発電は世界的に廃止の傾向にある。 18.3	17.0	
5	大事故の可能性はゼロではないし、起き た場合の被害が大きすぎる。	64.6	60.5
6	原子力発電の安全システムや国、企業等 の安全確保に信頼がおけない。	39.6	32.0

(以下7～11の選択肢は00年はなし)

7	原子力発電の技術開発より、新しいエネ ルギーの開発と育成に重点をおくべきだ。	29.7
8	原子力発電所の建設を新たに受け入れる 地域はない。	24.0
9	放射性廃棄物の処理・処分費用まで含め れば原子力発電のコストは安くない。	17.2
10	国の原子力政策を信頼できない。	21.6
11	老朽化した原子力発電所が増えているの で、安全性は低下している。	36.2
12	その他	1.0 1.7

問43 原子力発電の安全確保に関する次のよ
うな説明を聞いた時、あなたは安全性に対し
てどのような気持ちを持ちますか。

(ア) 原子力発電所のすぐそばでも、発電所
から受ける放射線量は、誰もが土壌や宇宙から
受けている自然放射線量の日々の変動幅の中
に隠れてしまうくらいごく少なく、測定し
ても直接とらえることはできない程度ですが
発電所では、常に測定し、異常がないことを
確認しています。

1	たいへん安心できる	2.7	5.1
2	少しは安心できる	31.5	38.9
3	あまり安心できない	43.9	35.8
4	まったく安心できない	11.1	8.4
5	どちらともいえない	8.7	9.2
NA		2.0	2.5

(イ) 故障の早期発見、事故未然防止のため
種々の方策がとられている。(定期検査や、
例えば下記の注*にみられるような安全対策)

1	たいへん安心できる	2.1	3.1
2	少しは安心できる	29.8	41.7
3	あまり安心できない	46.7	33.6
4	まったく安心できない	10.8	10.3
5	どちらともいえない	8.0	9.2
NA		2.7	3.1

(ウ) 故障が発生しても、放射能漏れが起き
ないように多重防護施設など万全の方策がと
られている。

1	たいへん安心できる	1.8	4.7
2	少しは安心できる	25.7	32.0
3	あまり安心できない	46.7	42.3
4	まったく安心できない	16.3	10.4
5	どちらともいえない	7.1	7.2
NA		2.5	2.8

(エ) 事故につながるような恐れが少しでも
ある時は、直ちに運転を停止するようにして
いるから安全性は十分保たれている。

1	たいへん安心できる	3.2	4.6
2	少しは安心できる	26.6	29.9
3	あまり安心できない	46.1	42.4
4	まったく安心できない	14.5	11.8
5	どちらともいえない	7.5	8.2
NA		2.1	3.1

(オ) 発電施設は自然災害や戦争、犯罪など
による破壊から守られるよう堅固に作られ、
また管理されている。

1	たいへん安心できる	2.7	3.1
2	少しは安心できる	23.3	25.3
3	あまり安心できない	43.8	40.0
4	まったく安心できない	19.2	19.2
5	どちらともいえない	8.8	9.9
NA		2.2	2.5

(カ) 事故がひとたび起きれば大変なことは
重々承知している。事故が絶対起きないよう
万全の努力をしている。

1	たいへん安心できる	2.4	3.1
2	少しは安心できる	22.7	27.7
3	あまり安心できない	46.5	41.6
4	まったく安心できない	17.8	15.6
5	どちらともいえない	8.6	9.3
NA		2.0	2.6

*注：安全対策の例

インターロックシステム：たとえば、運転員
が誤って制御棒を引き抜こうとしても、制御
棒の引き抜きができないようになっているなど、
誤った操作によるトラブルを防止するシ
ステム。

フェイルセーフシステム：システムの一部に
故障があった場合でも、常に安全状態に向か
うという考え方にに基づき設計されたシステム。

問49 最近ではいろいろな分野で自由化や規
制緩和が言われていますが、あなたは「電力
の自由化」について知っていますか。1つだ
け選んでください。

1	知っている	10.9	11.8
2	少し知っている	22.0	19.2
3	聞いたことがある	33.0	33.6
4	聞いたことがない	33.2	33.0
NA		0.9	2.4

問50 「電力の自由化」が進められると、ど
うなると思いますか。思い当たるものをいく
つでも選んでください。

1	通信のように新しい事業者がどんどん進 出する	26.8	32.7
2	一般家庭の電気料金が安くなる	38.7	43.8
3	工場など大口利用者の電気料金が安くな る	19.1	22.1

4 窓口対応など電力会社のサービスが良く
なる

5	いろいろな料金メニューから自由に選べ るようになる	26.3	34.1
6	コストが優先されて安全対策がおろそか になる	36.3	30.5
7	コストが優先されて安定供給がおろそか になる	9.3	12.9
8	コストが優先されて環境問題がおろそか になる	24.9	29.3
9	水力、火力、原子力、太陽光、風力など の発電のバランスが変わってくる	23.6	35.6

10 新しい発電方法ができてくる

11	何も変わらない	1.1	2.0
12	わからない	14.1	10.3

問51 旧ソ連で10年ほど前に起こったチェル
ノブイリ原子力発電所事故のことを覚えてい
ますか。

1	よく覚えている	49.5	49.2
2	少し覚えている	33.7	30.3
3	聞いたことがあるような気がする	8.7	10.1
4	覚えていない	7.5	7.4
NA		0.6	3.0

(00年なし)

問52 2～3か月前に発覚した東京電力によ
る原子力発電所のひび割れなどのトラブル隠
しのことを覚えていますか。

1	よく覚えている	53.7
2	少し覚えている	25.4
3	聞いたことがあるような気がする	10.7
4	覚えていない	7.1
NA		3.1

問53 たいていの人、他人の役に立とうと
していると思いますか。それとも自分のこと
だけに気を配っていると思いますか。

1	他人の役に立とうとしている	30.0	33.6
2	自分のことだけに気を配っている	54.8	50.9
3	その他	13.7	12.5
NA		1.4	3.0

問54 他人は、スキがあれば、あなたを利用
しようとしていると思いますか。それともそ
んなことはないと思いますか。

1	利用しようとしていると思う	26.0	26.4
2	そんなことはないと思う	63.4	60.4
3	その他	9.4	10.3
NA		1.2	2.9

問55 たいていの人、他人は信頼できると思
いますか。それとも、用心するにこしたことは
ないと思いますか。

1	信頼できると思う	21.0	22.7
2	用心するにこしたことはないと思う	70.9	65.7
3	その他	7.1	8.3

NA 0.9 3.3

問62 あなたは何党を支持しますか。

1 自民党	15.3	21.0
2 民主党	9.7	2.8
3 公明党	6.1	6.1
4 自由党	2.3	2.1
5 共産党	4.0	2.2
6 社民党	2.1	0.6
7 保守党	0.2	0.1
8 無所属の会	0.2	0.8
9 その他の政党	0.7	0.1
10 支持政党なし	55.8	60.4
NA	3.8	3.8

F 1 あなたの性別をお聞かせください。

1 男性	48.0	49.7
2 女性	52.0	50.3
NA	—	—

F 2 あなたのお生まれと年齢をお聞かせください。

18~29歳	21.5	21.6
30~39歳	18.0	17.8
40~49歳	17.9	15.5
50~59歳	19.7	20.4
60~69歳	17.8	14.9
70~79歳	5.1	9.9
NA	—	—

F 3 あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。(中退・在学中は卒業とみなします。)

1 小学校・中学校卒, 旧小・旧高小卒	12.3	12.7
2 高校卒, 旧制中学卒	42.4	44.6
3 専修学校卒(通称専門学校)	9.0	10.6
4 大学院・大学・短大・高等専門学校卒以上	34.0	32.0
NA	2.3	0.2

F 4 あなたのご職業は何ですか。

(下の該当する項目に○をつけてください。)

自営業	1 農林漁業	0.8	1.1
	2 商工サービス	5.3	6.2
	3 自由業	3.2	5.5
勤め人	4 管理職	6.7	5.8
	5 専門・技術職	13.6	12.6
	6 事務職	8.1	6.2
	7 労務・技能職	8.5	7.6
家族従業員	8 農林漁業	0.1	0.5
	9 商工サービス	1.8	2.5
	10 自由業	0.3	1.0
無職・その他	11 主婦(無職)	21.7	22.7
	12 主婦(パートに出ている)	10.0	8.2
	13 フリーター	3.0	2.2
	14 学生	4.5	8.2
	15 その他の無職	8.0	9.3
NA		4.3	0.2

ご協力どうもありがとうございました。